

2019年4月22日

「産業財産権分野・コンテンツ分野合同会合（第5回）」に向けて

武蔵野大学教授 相澤英孝

1. 制度設計についての基本的な難しさ

AI、ビッグデータに代表される現代技術の躍進において、政策決定はこれまでにない難しい側面を向かえている。① 技術革新の速度がこれまでとは、全く異なる早さで進んでいる。② この流れにうまく乗らなければ、経済発展はない。③ 世界は国家の上に成り立っているにも関わらず、現代技術はその国家を超えて進んで行く。④ 経済のグローバル化により、国家と企業の利益の相克が大きくなってきた。⑤ 先進国でも、国家の利益が経済的発展に限られず、安全保障上の問題が発生してきている。

2. 制度設計の時間軸と技術の時間軸

技術発展を基礎とする経済発展にとっても、制度基盤は欠かすことができない。産業革命以来の経済発展も制度なくしては、成し遂げられなかった。現在においても、経済は制度の上に発展してきている。課題は、技術革新を進め、経済発展を推し進めるための制度設計をどのようにするかということである。

3. グローバル化の新しい側面

20世紀末の経済のグローバル化は、経済の国際的な関連が極めて大きくなったという量的側面であったのに対し、21世紀のグローバル化は世界経済が切り離すことができなくなったという側面があり、これまでの発展とは異なるものである。21世紀においては、高速度化されたネットワークに国家が結び付けられる一方で、その国家がそれぞれの利益を主張するという状況である。

4. 必要とされる柔軟な思考

21世紀に、日本が技術革新を進め、経済発展を進め得て行くためには、制度設計者を含めて、技術や経済の変化に柔軟に対応していかなければならない。法制度設計者にも、従来のひたすら「慎重」という姿勢から、将来へ向かっての「改革」が求められている。